総合心療センター　看護

近森病院副看護部長　武田直子

看護部体制

近森病院副看護部長が心療センター看護全般を担当。

外来（精神科、心療内科、ストレス外来）; 副看護部長 1名、主任1名

精神科急性期治療病棟（1単位2フロアー）; 看護師長1名、看護主任1名

外来と病棟、病棟間の看護連携を強め、情報共有だけでなく、必要に応じて部署間でスタッフが勤務（リリーフ）できる体制をとっている。2022年は外来主任が病棟の夜勤も行い、より外来と病棟の連携を強化できた。

デイケア（2単位に1名ずつ）に看護師を配置し、訪問看護ステーションラポールちかもりの看護との連携も強めて、在宅生活への継続看護を実施している。すべての部署で地域連携をすすめ、精神科に対応した地域包括ケアシステムにおける精神科急性期医療の役割を果たしている。

各部署、日常の看護の振り返りの機会をもち、多職種とのカンファレンス開催を担い、患者を中心に、思いやりの心をもって看護するように努めている。

精神障害者の地域移行・定着を推進し、地域生活を支援する

2022年も引き続き、感染症対策を強化し、総合心療センターではクラスターの発生なく、訪問看護の各部門を継続して診療、支援を継続することができた。（2022年 4月に短期間のみ入院受け入れ停止とした）

高知県のクラスター発生病院への看護師派遣の要請にこたえ、3 病院に 6 人の看護師を派遣し、支援することができた。

新規患者の診療は月平均50件の依頼があったが、医師の診療体制が取れずにお断りすることも多かった。精神科（心療内科、ストレス外来）には神経症、発達障害、依存症、思春期、認知症など社会的なニーズが高まっており、年齢も低年齢から高齢者までと幅広い。また、他病院や施設や地域、行政、警察など他機関からの相談も多岐にわたるため、医師の診療だけでなく看護外来など、支援できる体制をつくって対応した。（4 月より療養生活継続加算開始、療養環境整備加算）

急性期病院の精神科の機能を強化し、役割を果たす

リエゾンチーム活動では、精神科認定看護師、外来看護師が精神科医、公認心理師（臨床心理士)、作業療法士、PSW(精神保健福祉士)とカンファレンスを実施しながら介入にあたった。急性期（DPC）病院において、早期退院を妨げないように患者、家族、スタッフを支援し、タイムリーな介入に心がけた。また、感染症流行期における患者、スタッフのメンタルヘルス支援にも関与し、支援を継続している。

高知市の精神科救急医療事業（土日色日の輪番体制）を担い、師長、主任が当番を担当した。

教育活動にかんして　看護学校その他非常勤講師（近森病院看護部参照）

感染症の影響から、OJT教育を強化して、病院の対応を遵守し、教育活動を展開した。

これまでと同様の臨床実習の受け入れはできなかったが、できる限りの受け入れを行い、Webによる講義や出張講義もおこない、後進の育成に努めた。看護学校の授業には主任、リーダーナースが分担して実践をもとにして講義を担当した。